

<b>〔科目名〕</b> 自然史・地理情報と地域創造	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目
<b>〔担当者〕</b> 三浦 英樹	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間：</b> 講義後または適宜(事前のメール連絡で時間調整します) <b>場所：</b> 研究室(大学院棟 1203 室)	<b>〔授業の方法〕</b> 講義・演習
<b>〔科目の概要〕</b> 「地形地理情報論」では、自然を理解し、把握するための基本となる地形・地質学と地理空間情報学の基礎について学んだ。この講義では、これらの基礎的知識をもとに、さらに自然環境全般とその歴史に視点を広げ、自然と人間との関係はどのようにあるべきかという現代的課題について、以下の観点から考えることを目指します。 ① 物理化学の限界を踏まえたうえで、自然史科学の視点で自然と人間の間隔を捉えることの意味 ② 世界と日本で生じた様々な環境問題の内容と人間との関係 ③ 人文社会科学の視点で見た環境問題の考え方と自然科学および人間との関係 ④ 日本列島と青森県の自然環境・自然史の概要とその意義 ⑤ 青森県の自然公園・保護地域の特徴とそれらの地域の自然史がもつ意義 ⑥ 自然と人間との関係を前向きに捉えるための方法としての「エコツーリズム」、「エコミュージアム」の在り方と課題		
<b>〔授業科目群・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> これまでに学んだ地形地質学や地理空間情報学の知識を基礎として、さらに学問分野の壁を越えた様々な視点で自然環境を十分に読み取り、それらの価値や楽しみ方を知ることは、自然と人間の間隔を考へていく上での基本的に必要な知識になります。それは、さらに持続可能な未来で人類が生き残るための社会的な課題に対する方策を検討したり、地域創造への新たな発想やアイデアを生み出すための力ともなるはずで。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> この講義では、以下の内容に到達することを目標とします。 ① 自然と人間の間隔を考へる上での「自然史」の意義を理解すること ② 人類が抱えてきた環境問題の内容について理解し、それらに問題に対する自分の考へを持つこと ③ 自然と人間の間隔に関するこれまでの人文社会科学的な考へ方の基礎について理解すること ④ 日本列島と青森県の自然環境・自然史に関する知識を習得して、その意義について理解すること ⑤ 青森県の自然公園・保護地域の知識を習得して、その意義について理解すること ⑥ 地域の自然や文化を生かした地域作りに関する基礎知識を得て、自分の考へを持つこと		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 新規担当のため、なし。		
<b>〔教科書〕</b> ありません。各回で、必要に応じ、資料を配付します。		
<b>〔指定図書〕</b> ありません。		
<b>〔参考書〕</b> 赤坂憲雄 (2020) 『民俗知は可能か』 春秋社 アルド・レオポルド(新島義昭訳) (1997) 『野生のうたが聞こえる』 講談社学術文庫。 石牟礼道子 (2004) 『新装版 苦界浄土』 講談社文庫。 岩田修二 (2018) 『統合自然地理学』 東京大学出版会。 大熊 孝 (2020) 『洪水と水害をとらえなおすー自然観の転換と川の共生』 農山漁村文化協会。 小野有五 (1999) 『ヒマラヤで考へたこと』 岩波ジュニア新書。 小野有五 (1999) 『たたく地理学-Active Geography』 古今書院。 加藤尚武 (2000) 『環境倫理学のすすめ(増補新版)』 丸善出版。 加藤尚武 (2000) 『新・環境倫理学のすすめ(増補新版)』 丸善出版。 小池一之ほか編著 (2005) 『日本の地形3 東北』 東京大学出版会。 小島圭二ほか編著 (1997) 『日本の自然 地域編 2 東北』 岩波書店。 清水 展・飯嶋秀治 (2020) 『自前の思想 時代と社会に答えるフィールドワーク』 京都大学学術出版会。 菅 豊 (2013) 『新しい野の学問の時代へ』 農山漁村文化協会。 高木仁三郎 (1998) 『いま自然をどうみるか 増補新版』 白水社。 武内和彦・鷺谷いずみ・恒川篤史編著 (2001) 『里山の環境学』 東京大学出版会。 中村桂子 (2013) 『科学者が人間であること』 岩波新書。		

中谷宇吉郎 (2015) 『雪』 岩波文庫。  
 日本野鳥の会編 (2003) 『市民が止めた！千歳川放水路—公共事業を変える道すじ』 北海道新聞社  
 羽生淳子・佐々木剛・福永真弓編著(2018) 『やま・かわ・うみの知をつなぐ 東北における在来知と環境教育の現在』  
 東海大学出版部。  
 日浦 勇 (1975) 『自然観察入門 草木虫魚とのつきあい』 中公新書。  
 日高敏隆 (2013) 『世界を、こんなふうに見てごらん』 集英社文庫。  
 松下和夫 (2022) 『1.5°Cの気候危機』 EHESC 出版局。  
 レイチェル・カーソン(青樹築一訳) (2019) 『沈黙の春』 新潮文庫。  
 レイチェル・カーソン(上遠恵子訳) (2021) 『センス・オブ・ワンダー』 新潮文庫。  
 若松伸彦・上高地自然史研究会 (2016) 『上高地の自然誌:地形の変化と河畔林の動態・保全』 東海大学出版部。

**〔前提科目〕**

専門科目の「地形地理情報論」を履修していることを前提とします。なお、必須ではありませんが、教養科目の「地球科学」を履修していることが望ましい。

**〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)**

- ① 授業の最後には、「リアクションペーパー」の時間を設けて、提出してもらいます。「リアクションペーパー」には、授業を受けて感じたこと、自分が考えたこと・感想、講義内容への質問や意見などを自由に記述してください。文章は、他人が読むことを前提に、わかりやすく論理的に書いてください。おもしろい、または重要な意見・質問は、できるだけ、次の授業の冒頭で紹介・回答します。
- ② 「最終レポート」は、指示する課題に対して記述してください。一般論や他人の借り物の考えではなく、自分の中にある問題意識と照らし合わせて、自分自身の深い考えや自分が思うところ、感じたことを記述することが大切です。

**〔評価の基準及びスケール〕**

- ① 「リアクションペーパー」では、感じたこと、自分が考えたこと、講義内容への質問や意見などを書いてもらい、記述内容のわかりやすさや論理性、および授業内容への関心や取り組む姿勢を総合的に評価します。
- ② 「最終レポート」は、課題の要件を満たしていること、他人が理解できる文章を書いていること、自分の中にある問題意識や考えを自分なりの言葉で表現していること、を基準にして評価します。
- ③ 総合的な評価は、「リアクションペーパー」の評価 60%、「最終レポート」の評価 40%の比率で、すべてを合算して、合計 100 点満点(A:80 点以上、B:70～79 点、C:60～60 点、D:50～59 点、E:50 点以下)で評価します。

**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕**

人類の歴史 700 万年の中でも、ここ 50 年程の人類を取り囲む変化は、地球規模で見ても、日本という国レベルで見ても、過去に例を見ないような異常な大きな変化になっています。なぜ、どこがそんなに異常なのか、それを理解するためには、自然と人間の歴史を見つめ直して、両者の関係を考えていく必要があります。また、身近に存在する自然や現象の不思議さや美しさを知ることは、自然の中で生かされている人間というものの存在を再認識する原点にもなります。この授業では、このような視点で、少し「浮世離れ、現実離れ」したかたちで、授業を行います。こういう話は大学でなければできないことだと思っています。この講義で何かの刺激を受けて、地球の中で生きている自分、自然の一部である人間という立場で、自分を客観視して、そのうえで地域研究の「良き問い」を立てられるように人になって欲しいと思います。

**〔実務経歴〕**

該当なし。

**授業スケジュール**

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): (1)イントロダクション: 自然史とは何か 内 容: 全体のイントロダクションとして、この講義の目的と内容、背景について概説します(キーワードは、第四紀の生態系・環境変動、自然と人間の関係、自然観、地球規模の課題と地域の課題の関係、人新世、ネイチャーライティングとエコクリティシズム、地理情報システムの活用)。 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ①日本の公害問題と自然保護 内 容: 日本における公害問題を中心とした環境問題の歴史とそれに対する対応について概説します。 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ②地球規模の環境問題とプラネタリーバウンダリーと人新世 内 容: 地球規模の環境問題である気候変動、生物多様性、循環経済と、関連する概念について概説します。 教科書・指定図書

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ③自然と人間に関する様々な考えと国内外の様々な取り組み</p> <p>内 容: 風土、里山と農業遺産、文化の多様性、伝統知、在来知、生態知について概説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): (3)環境倫理学と環境経済学と環境人文学の基礎</p> <p>内 容: 地球という惑星の中での自然と人間の間を考察するため、環境倫理学と環境経済学と環境人文学の基礎について概説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): (4)日本列島と青森県の自然環境と自然史: ①地形と地質と陸水</p> <p>内 容: 日本列島と青森県の自然環境と自然史を理解するための第四紀地史の基礎をおさらいした上で、川と湿地とため池と温泉と地震と津波について概説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): (4)日本列島と青森県の自然環境と自然史: ②気象と雪氷と海洋</p> <p>内 容: 日本列島と青森県の気象と雪氷と海洋に関わるモンスーン、雪氷の形成、海面変化と海流の変化について概説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): (4)日本列島と青森県の自然環境と自然史: ③植物と動物と昆虫</p> <p>内 容: 日本列島と青森県の第四紀の環境変動と生物分布、農林水産業に関わる生物の特徴について概説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): (4)日本列島と青森県の自然環境と自然史: ④土壌と考古遺跡</p> <p>内 容: 日本列島と青森県における土の成り立ち、人類の移動、遺跡の分布、世界遺産である北海道・北東北の縄文遺跡群について概説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): (5)青森県の自然公園・保護地域と自然史: ①概要、十和田・八幡平国立公園</p> <p>内 容: 自然公園・自然保護地域の概要と、十和田・八幡平国立公園の歴史や自然について学び、その価値と意味について考えてもらいます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): (5)青森県の自然公園・保護地域と自然史: ②津軽国定公園と世界自然遺産・白神山地</p> <p>内 容: 津軽国定公園と世界自然遺産・白神山地の歴史や自然史について学び、その価値と意味について考えてもらいます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): (5)青森県の自然公園・保護地域と自然史: ③下北半島国定公園と下北ジオパーク</p> <p>内 容: 下北半島国定公園と下北ジオパークの歴史や自然史について学び、その価値と意味について考えてもらいます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): (5)青森県の自然公園・保護地域と自然史: ④三陸復興国立公園、その他の県立自然公園</p> <p>内 容: 三陸復興国立公園、その他の青森の県立自然公園の歴史や自然史について学び、その価値と意味について考えてもらいます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): (6)地様々な課題を背景とした自然と人と地域を結びつける取り組み: ①エコツーリズムと自然体験教育</p> <p>内 容: 全国各地のエコツーリズムの事例を紹介し、青森県における導入の可能性について考えてもらいます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): (6)様々な課題を背景とした自然と人と地域を結びつける取り組み: ②エコミュージアムと地域の魅力の発見</p> <p>内 容: 全国各地のエコミュージアムの事例を紹介し、青森県における導入の可能性について考えてもらいます。</p> <p>教科書・指定図書</p>